

# 三宅島ふるさとだより NO. 39

発行日 平成 25 年 9 月 1 日 発行者 三宅島ふるさと再生ネットワーク東京事務局 ☎03-3963-5678 加藤  
〒173-0005 東京都板橋区仲宿 2 5 - 6 あすなろ福祉会内 本部 三宅島三宅村神着 320-2 電 090-4922-0798

皆さんの参加をお願いします！

## 三宅島から福島へのエール

### 三宅島の噴火体験を福島のこれからに活かす

#### 「公開シンポジウム」を日本応用心理学会 第 80 回記念大会で開催

日時 9 月 14 日（土）午前 9 時受付  
9 時 30 分から 11 時まで

場所 日本体育大学 3206 教室

司会者 藤森立男先生（学会常任理事、横浜国立大学院教授）

報告者 (1) 大森哲至先生（玉川大講師 会津子ども支援活動隊事務局長）

(2) 福島大熊町出身。福島県会津若松市、河東仮設住宅の代表武内さん、副代表鈴木さん。

(3) 三宅島報告者 松尾駿一先生（元三宅高校校長「2000 年三宅島噴火・避難～子供たちの記録」を出版）、佐藤就之（避難中は三宅島島民連絡会会長、現・三宅島ふるさと再生ネットワーク会長）

（交通アクセス）住所；世田谷区深沢 7-1-1 最寄駅は、桜新町駅、都々力駅、自由ヶ丘駅、恵比寿駅（④停留所バス 30 分、日本体育大学前下車）

#### 参加への呼びかけ

三宅島噴火と福島原発事故災害は、共通点が多い。三宅島は 13 年経っても火山ガス被害がまだ続く。福島原発被害は、各地の対策も解決の見通しも立っていない。共に長期化している。

火山ガスと核被害は比べものにならないほど被ばくは深刻だ。

三宅島の体験がどれほど役立つかわからないが、松尾元三宅高校校長先生と共に努力をしたい。

福島原発被災避難・仮設で生きている人々の貴重な体験を直接お伺いし、共に考える貴重な機会である。

メディア関係者や「三宅新報」の読者も、この機会を逃さずに沢山の方々が公開シンポに参加していただくことを強くお願いしたい。そして福島と三宅島の長期災害被災者救済のために絆を強め、ふるさとの再生への歩みを共に出来ればと切望している。

皆さまが被災者の声を直接に聞き、日本の置かれている災害の実態と課題に触れてもらいたいと心より思っている。

多くの皆さまの参加をお願いします。（佐藤）

## みなさまおいでください！

### 島市開催日

9 月 22 日午前 11 時から

商工会・七島信用（神着）

で開きます

○神楽坂商店街の「あおぞら市」に出店します。

10 月 6 日（日）12 時から

6 時まで！ 最寄駅は、地下鉄東西線神楽坂駅 1 番出口を出てスーパーキムラヤ周辺。他に大江戸線牛込神楽坂駅、JR 飯田橋駅 15 分